

防除情報(病害虫情報 号外 第8号)

令和6年3月5日
神奈川県農業技術センター

トマト及びキュウリにおけるタバコナジラミの防除について (露地作に向けて)

トマト及びキュウリにおいて、抑制作以降タバコナジラミの発生量が多い状況が続いています。本虫はウイルス病(トマト黄化葉巻病、トマト黄化病及びキュウリ退緑黄化病)を媒介します。特に生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなります。

露地作の育苗に向けて、本虫を「育苗施設内へ入れない」、「育苗施設内で増やさない」、「促成トマト、促成キュウリ施設から出さない」ことが重要です。生育初期での感染を抑えるため、育苗期～定植直後の防除を徹底しましょう。また、今後、栽培が終了した施設では、施設を密閉し、分散を防ぎましょう。

● 発生状況等

(1) 2023年作の抑制トマトにおいて、10月のタバコナジラミ寄生葉率が、2009年に調査を始めて以来最も高くなりました(図1)。また、同年作の抑制キュウリにおいて、11月のタバコナジラミ寄生葉率が2013年に調査を始めて以来2番目に高くなりました(図2)。

(2) 促成トマトにおいて、1月のタバコナジラミ寄生葉率は過去10年間の中で3番目に高く、黄化葉巻病発病株率は最も高くなっています(図3)。また、2月におけるタバコナジラミの発生量は、促成トマトで平年よりやや多く、促成キュウリで平年より多くなっています(データ省略)。

(3) 気象庁が2月29日に発表した向こう1ヶ月の気象予報では、気温は平年並か高いことから、本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられます。

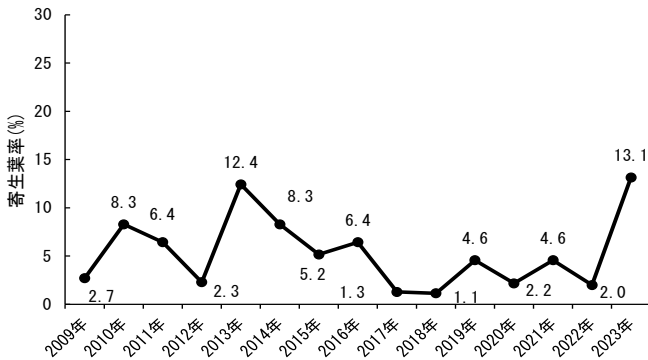


図1 抑制トマトにおける10月のタバコナジラミ寄生葉率の推移(2009年～2023年)

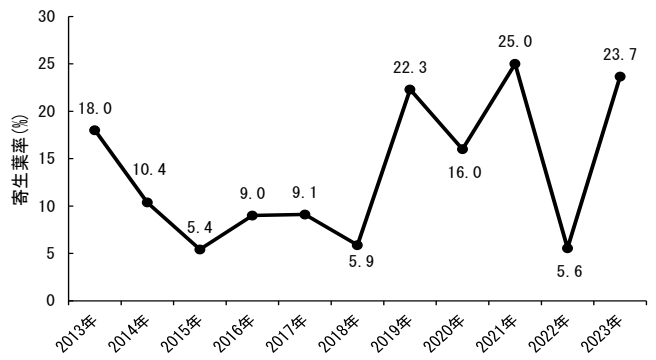


図2 抑制キュウリにおける11月のタバコナジラミ寄生葉率の推移(2009年～2023年)

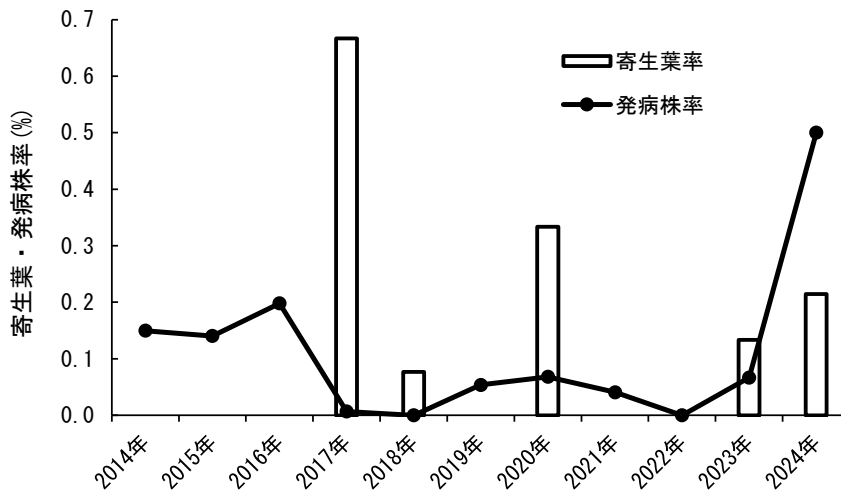


図3 促成トマトにおける1月のタバコナジラミ寄生葉率及び黄化葉巻病発病株率の推移 (2014年～2024年)

● 防除対策

- (1) 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期からの防除徹底が重要です。なお、抵抗性を発達させないために、同じ系統の薬剤は連用せず、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
- (2) 施設開口部(出入口、天窓等)には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、害虫の侵入防止に努めましょう。特に、出入口には防虫ネットを2重被覆し、本虫の侵入を防ぎましょう。
- (3) 黄色粘着板により本虫の発消長を把握し、発生初期に薬剤防除を行いましょう。
- (4) 施設内外の雑草は害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底しましょう。
- (5) ウイルス病発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出し、土中に埋めるなど適切に処分しましょう。
- (6) 促成トマト、促成キュウリ栽培終了後に施設の開口部を7～10日以上密閉して本虫を死滅させ、施設外への分散を防ぎましょう。

● 防除薬剤例(育苗期)

育苗期の防除薬剤例を表1、2に示しました。なお、農薬使用の際は必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守してください。

表1 トマトに対する防除薬剤例(2024年2月28日現在の農薬登録情報に基づく)

使用時期・使用方法	IRAC コード	薬剤名
【育苗期：粒剤施用】	4A	ベストガード粒剤
	4A	アルバリン粒剤またはスタークル粒剤
【育苗期後半～定植時 ：粒剤施用または灌注】	28	プリロッソ粒剤オメガ
	28	ベリマーク S C
【育苗期：散布剤】	4A	ベストガード水溶剤
	9B	コルト顆粒水和剤
	15	マッチ乳剤
	23	モベントフロアブル
	—	サンクリスタル乳剤
	—	ベミデタッチ

表2 キュウリに対する防除薬剤例(2024年2月28日現在の農薬登録情報に基づく)

使用時期・使用方法	IRAC コード	薬剤名
【育苗期：粒剤施用】	4A	ベストガード粒剤
	4A	アルバリン粒剤またはスタークル粒剤
【育苗期後半～定植時 ：粒剤施用または灌注】	28	プリロッソ粒剤オメガ
	28	ベリマーク S C
【育苗期：散布剤】	4A	ベストガード水溶剤
	9B	コルト顆粒水和剤
	15	マッチ乳剤
	23	モベントフロアブル
	—	サンクリスタル乳剤

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333

ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

○ 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。